

七尾市役所玄関に掲示されている「平和都市宣言」

非核・いしかわ

非核の政府を求める石川の会 会報

平和市長会議加盟自治体を訪ねて(第三回)

七尾市へ平和への祈りをこめて

秋分も過ぎた九月二四日、非核石川の会は『平和市長会議』に加盟し平和都市宣言に基づく施策として平和写真パネル展、平和アニメ上映会などを開催

事務局
〒920-0848
金沢市京町 28-8
石川民医連労働組合気付
Tel 076-251-0014
郵便振替
00760-0-15689

非核5項目

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
- ② 国是とされる非核三原則を厳守する。
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

している七尾市を訪問しました。戦国の巨大な山城
七尾城跡の緑に映える七つの尾根を眺める会議
室。七尾市から奥村義彦総務課・課長補佐、宮川佳
志子総務課・総務法制グループリーダー、川原峰明
総務課・総務法制グループ専門員の応対を戴きまし
た。当会からは永山孝一常任世話人、神田順一事務
局長、川本浩平事務局次長が出席しました。

平和市長会議への加盟がきっかけで『平和写真パネル展』の開催へ

昨年より始めた『平和写真パネル展』は二〇一一年一月平和市長会議加盟の直後、武元文平市長から市民対象に何かを始めたいと指示があり、準備に取り掛ったとのこと。また、本年三月市議会では山添和良議員の質疑で、毎日新聞の社説を例にあげ「平和学習の経験のない若い教師も増えている。ベテラン教師と若手が知恵を出し合って、平和を大切にする現場力を培いたい」との質問に、市長から「このような催しを通じて戦争の悲惨さ、そしてまた命の尊さというものを次世代に伝えていく、幅広い年齢層の市民が戦争体験者の方々のお話を聞きながら、市民の平和の大切さを見つめ直す、そしてそれを広



「国の基本として原子力を持つということ、単にエネルギーの問題だけではない。非常に大事な抑止機能を果たしている。(原子力)を決して捨てるべきでない」(森本敏防衛大臣、原発推進団体の講演録)
▼「原発を維持することは、核兵器を作ろうと思えば一定期間のうちに作れるという『核の潜在的抑止力』になっている。原発をなくすことはその潜在的抑止力をも放棄することになる」(石破茂自民党幹事長、半月刊誌『サビオ』) ▼「日本は・・・核兵器の材料になり得るプルトニウムの利用が認められている。こうした現状が外交的には、潜在的な抑止力として機能している」(読売新聞社説) ▼潜在的核抑止のオンパレードである。これが原子力固執勢力の根っこにある。原発は単なる電力生産のための工場ではない。濃縮ウランを核反応させ、プルトニウムという核兵器の材料を生成する原発は、潜在的核武装能力の淵源である。日本は核兵器をもたないまでも潜在的核保有国になっている。将来の核武装につながる原発の危険な役割についてもっと刮目すべきである。(か)



市内4会場で開かれた平和写真パネル展
(写真は能登島市民センターの会場にて)

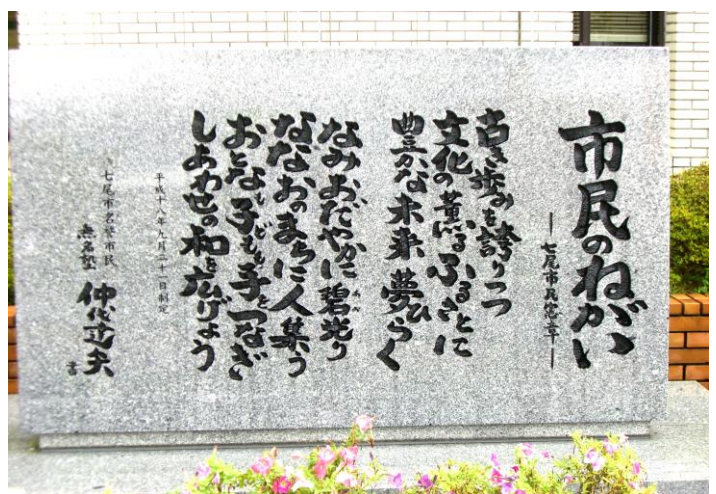
めていく機会にしていたければ」との答弁でした。さらに六月定例会でも山添議員の質疑で、「改めて、非核都市宣言を行ってはどうかと提案を申し上げたい。(補足資料として多摩市で制定された非核平和都市宣言を紹介される)多摩市では、こうした非核平和都市宣言を採択するに当たって、多くの市民の方から意見を求めました。まず、意識調査アンケートを行い、その結果を参考にして、市民懇談会にて宣言の案文を作成いたしました。その後、これに対するパブリックコメントを求め、最終的には多摩市議会で採択を致しました。七尾市においても、こうした議論を重ねていく必要性を感じますが、市長さんはどのようにお考えになられるか」との質問

に「今般、三・一一福島原発事故により原発災害は、大変大きな課題が提示された。この地域におきましても心配があるわけで、基本的には原発事故を二度と起こしてはならない。まず、原発の安全対策を求めていくのが第一の課題と思っています。そのように市民の安全・安心を最優先に、今後とも国や事業者に求めていきたい」と市長が答弁しています。(七尾市議会ホームページより)

今年市内四カ所でパネル展を開催

パネル展の開催にあたり、原爆写真パネルは広島平和文化センターから無償で提供して戴いたとのことです。また、市内小中学生の平和に関する作文やポスター等の作品を募集し、展示したことや、小生向けにアニメ映画「つるにのって」の終日上映などが注目されます。

パネル展は、一年目(平成二三年度)は七尾市のパトリア特設会場で開催。運営は市の職員による作業分担で行い、一週間の会期で九〇八名の参加がありました。二年目(平成二四年度)は、より多くの市民が参加しやすいよう、平成の合併前の四会場(中島町、田鶴浜町、能登島町、七尾駅前パトリア)での開催となり、会場管理業務も外部委託とし、参加者は五一五名でした。今後は開催方法の検討が必要とお話でした。



仲代達矢無名塾塾長による「市民のねがい」
(七尾市民憲章)も市役所玄関にありました

来場者アンケートにふれて

七月二四日〜八月二四日開催の『平和写真パネル展』。寄せられた参加者アンケートを拝見。「大変悲惨な写真、拝見致しました。今後、戦争のない東アジアに努力したいと思いました」、「もつとたくさんの方に見てもらえたらいいと思います」、「戦争の恐ろしさをずっと語り継いでいくためにも、このパネル展は、とても重要だと思います」など、パネル展への積極的な評価が印象的、企画が市民から共感を持って迎えられていると感じました。

志賀原発は廃炉に！

―原発ゼロ、福島被災者支援―

一一・一一県民集会に参加しよう

とき 十一月二日(日) 一〇時
ところ 金沢市・中央公園で開催

福島原発事故から一年八ヶ月過ぎました。福島県では十六万人の人たちが県内外に避難し放射線の除染や賠償の見通しも立っていません。大量に拡散された放射性物質は県民の生活、健康や生業に大きな影響を与え、耐えがたい苦難の中に置かれています。

原発事故の被害は空間的、時間的、社会的に際限なく広がる「異質の危険」があり、人類と原発は共存できないことを明らかにしました。

政府・経済界・電力会社は事故の原因究明も出来ないままに「あらたな安全神話」のもとで原発に依存する再稼働と新原発建設の方向に舵を切りました。

志賀原発は直下や周辺に活断層があることが指摘されていますが、北陸電力は再稼働に固執しています。

国民の健康と生命、安全を求め全国的に脱原発の運動が大きくなるとなると広がっております。

石川県の「どいね原発」の脱原発行動は全国の運動と呼応するように毎週金曜日に行われています。

今「志賀原発廃炉」「原発ゼロ」への決断を求め、一一・一一石川県民集会を、非核石川の会の井上英

夫・五十嵐正博両代表世話人はじめ各界から二一人の方々が呼びかけられました。

非核石川の会では「一一・一一集会実行委員会」と「原発をなくす石川県連絡会」に参加し、集会成功と脱原発の運動に微力ですが協力をしていきます。

同封のチラシはポスターとしてご利用下さい。可愛い子どもたちのイラストは好評です。

賛同署名一〇〇〇人の運動中です。署名の返送をお願いします。

非核の政府を求める石川の会 常任世話人会

二〇一二年 日本平和大会「東京に

神田順一事務局長を派遣しましょう

広がる疑問と怒り・こんな日米関係はおかしい！

オスプレイを強行配備し全国で低空飛行訓練、福島第一原発と同じ出力を持つ原子力空母の四〇〇〇万人首都圏への常時配備、集団的自衛権と動的防衛力の名の下にカネも人も出そうとする政府、国民生活破壊が明らかかなTPP交渉、原発事故が未だに終息せず原因究明もされていないのに再稼働と新原発建設、国民の怒りは爆発寸前まで来ています。

竹島や尖閣列島などの領土問題は平和的外交努力こそが解決の道でしょう。このような状況の中で今年の平和大会が開催されます。

代表派遣の募金に取り組んでいます

費用六万円のところ、一〇月二〇日現在、一六人様から四万三五〇〇円いただいています。

目標達成にご協力をお願いします。

非核の政府を求める石川の会 常任世話人会

「オスプレイ配備に反対する県民大会」より

沖縄の青い空は私たち県民のものだ

沖縄国際大学学生

沖縄国際大学のすぐ後ろには世界一危険な普天間飛行場が広がっている。二〇〇四年八月一三日、大学にヘリコプターが墜落し、炎上した。当時中学一年生だったが、ニュースで見た事故の惨状はまるで別世界の出来事だった。

事故が起こった後も大学を取り巻く基地の現状はいまだ変わらない。授業を中断させる騒音を聞く、「墜落するのでは」と不安を抱く。私たちは静かなキャンパスで勉強したい。

危険なMV22オスプレイが配備されようとしている。どうして配備するのか。どうして政府は断れないのか。墜落したら誰が責任を取るのか。政府は安全性を強調するばかりで、沖縄の人々の声は無視され続けている。配備は沖縄差別ではないか。

これからの沖縄について、若者が考えて行動することが重要だ。若者の基地に対する認識が薄くなっている現状を変え、一丸となって配備反対、米軍基地早期撤去の思いを県外、国外に発信しなければならぬ。

返還された土地を平和的に活用し、県民のために役立てるべきだ。みんなが力を合わせれば、危険な基地を平和の街に変えられる。私たちの未来は自らの手でつくっていくなければならない。幼い子どもたちが危険な思いをしながら生活する未来など考えたくもない。

沖縄の青い空は米国や日本政府のものではなく、県民のものだ。これ以上、このきれいな空に軍用機を飛ばすのを許さない。沖縄の未来を切り開くため、私は若者の立場から実現の日まで頑張ると決意する。

日米両政府は県民の思いを真摯に受け止めてほしい。いかなる防衛政策であろうと、これ以上沖縄を犠牲にすることは許さない。沖縄の素晴らしい未来を築くため、みんなで頑張っていこう。

◎本稿は九月九日、宜野湾海浜公園で開かれた「オスプレイ配備に反対する県民集会」（十万三千人参加）で発言した沖縄国際大学学生 加治工綾美さんの発言内容です。「琉球新聞」九月一〇日に紹介されていた記事を転載しました。



大震災被災地の仮設住宅に

「愛と平和のちひろカレンダー」を贈ろう

東日本大震災と福島第一原発事故から一年八ヶ月が過ぎようとしています。引き続き、様々なたかいと取り組みが行われています。こうした中、全国のおさまさまな団体が被災地への支援活動を継続しています。

日本原水爆禁止協議会は、「二〇一三年版いわさきちひろカレンダー」を被災地に贈るキャンペーンにとりくんでいます。昨年、各地の原水協、団体・個人の募金で千本を超えるカレンダーを贈ることができました。ある仮設住宅では、「わあ、きれいな絵だわ」「部屋が明るくなったね」の喜びの声が

寄せられ、わずか三〇秒たらずで一箱（二五本）がなくなりました。福島市内の仮設住宅でも、「かわい絵で、すごく癒やされます」と喜んで受け取ってもらいました。

石川県でも募金を集め、一箱を福島の仮設住宅に送ることが出来ました。

「愛と平和のちひろカレンダー」を仮設住宅に贈る運動に是非、ご協力ください。

一口五〇〇円の募金をよびかけます。集まった募金で「ちひろカレンダー」を購入し、石川県原水協として被災地の仮設住宅にプレゼントします。基本的には一箱単位で被災地に届けます（発送は日本原水協の協力を得て行います）。

趣旨に賛同される方は、募金を原水協関係者に手渡しいただくか、左記の郵便振替口座に、口数を明記して募金をお送り下さい。郵便振替の「控え」を領収書に換えさせていただきます。

原水爆禁止石川県協議会

（募金の振込先）

■郵便振替口座

口座番号 〇〇七二〇一八一三七三四七

口座名義 石川県原水協

（問合せ先） 電話 〇七六（二四〇）七一九二

核戦争防止国際医師会議・広島大会の報告

「ヒロシマから 未来の世代へ」

反核医師の会共同代表世話人 原和人

八月二四日から二六日まで「ヒロシマから未来の世代へ」をテーマに、核戦争防止国際医師会議（IPPNW）ヒロシマ大会が開催された。広島での開催は二三年ぶりで、世界四五カ国から約五〇〇人（海外二〇〇人、国内三〇〇人）が参加した。

今回の広島大会は二年前に決定されたが、その後、三・一一東日本大震災に伴う福島原発事故を経験したこともあり、大会では、核兵器の廃絶と原発問題が中心的なテーマとして討議された。核兵器廃絶に向けての動きは、核兵器国の抵抗にもかかわらず、今年開催されたNPT準備会議での一六カ国声明など、核兵器禁止条約の交渉の開始を求める運動が高まっている。特に、IPPNWが二〇〇七年に呼びかけたICAN運動は潘基文国連事務総長や国際赤十字・赤新月運動などの世界のNGO団体の賛同も得て、市民運動において中心的な役割を發揮している。このICAN運動が共感を得ている理由は、核兵器は非人道的兵器であり、核兵器使用を禁止すべきであるという正当な訴えである。来年の三月にはオスロで、「核兵器使用の非人道的結末」に関する国際会議が開催される予定である。被爆国日本は、ヒロシマ・ナガサキの原爆の実相を伝え、核戦争が引き起こす非人道的な事実を世界に訴える責務がある。

一方、原発問題については、各国の参加者から、核戦争と同様に原発事故に対しても医師は無力であり、それゆえ防止が大切で、原発に依存しないエネルギー政策への転換を訴える発言が目立った。最後に大会アピールが発表され、その中で「福島の悲劇も忘れてはならない・・・私たちは、このような大規模な被害が起きないように防止するために行動しなければならぬ」と宣言された。

この広島大会に、反核医師の会（PANW）は一〇〇名を超える参加者を組織し、核兵器の廃絶ならびに原発を訴えて奮闘した。また、前回のバーゼル大会で初めて開催したワークショップ（WS）は、今回も「脱原発から核廃絶へ」「原爆症認定制度改革への取り組みと『黒い雨』について」の二つのWSが採用され、いずれのWSも会場に入りきれないほどの参加者であった。次回のIPPNW世界大会は、二〇一四年八月カザフスタンで開催される予定である。

IPPNW広島大会終了後、八月二七日の夜には東京で、「福島原発事故による放射能汚染とその公衆衛生学的な影響」をテーマにして国際シンポジウムが開催された。翌日の二八日には、PANWが主催した福島現地視察が行われた。この視察には、海外からの参加者二八人と日本からの参加者を合わせて四五人が参加した。

現地視察は、主に福島原発から二五km離れている川内村を訪問し、夕方には、福島県立医大の教授たちと懇談した。この福島現地視察は、海外の参加者に放射能汚染事故の現実を自らの目でみるまたとない機会となり、核兵器の廃絶と同時に、原発はな

くさなければならないという強い確信をもたらすものとなった。

八月二九日日の午前中、IPPNW広島大会と東京でのシンポジウム、そして、福島現地視察に参加した国際医師団は、衆議院議員会館で記者会見を行い、①被爆線量は可能な限り少なくしなければならぬ。年間被ばく量が5mSを超えると予想される場合（子どもたちや出産可能な女性の場合は1mS）には、何らかの対応をしなければならぬ。②1mS以上の被爆をした可能性のある人々の包括的な登録制度を確立すべきである。③原発労働者や除染作業者の放射線被ばく登録管理制度を早期に確立すべきである。④放射線の健康影響の生活で独立した情報提供をタイムリーに行うべきである、という勧告を発表した。

非核石川の会 リレーエッセイ

命のある限り

谷口 清信

肺癌末期、八カ月の生存率二五％。死の宣告を受けて二年、まだ生きてます。「人間の死亡率は百％、九〇歳の人でも死にたくないと言うものだ」と某医者から言われ、ものすごく気が楽になりました。生きているうちにこれだけは：と「新石川」の縮刷版を作りました。県内の平和や生活向上のたたかい、県民の運動を報道する地域民報としての「新石川」

が発行された一九六六年五月二〇日の創刊号から四五年分の紙面を掲載した縮刷版です。全六巻三万円で頒布しています。是非ご購入を！（申込先・日本共産党石川県委員会牧田まで）。

ところで東北大震災、地震と津波だけならばもつと復旧復興が進んだであろう。原発事故で今なお一六万人の人たちが故郷へ帰れないでいる。こんな危険なものが地震列島日本に五一基もある。今動いているのは大飯原発の二基だけです。今動いているのは全部廃炉にできるはずです。

九月一五日付北陸中日新聞トップに、「原発ゼロ政策決定」「三〇年代目標明記」「後一〇年廃炉ラッシュか」との大見出しで、「政府は九月一四日エネルギー・環境会議を開き『二〇〇三年代に原発稼働ゼロを可能とする』との目標を掲げた『新エネルギー戦略』を決めた：一八日に閣議決定の見通し」と報道された。ところがその翌日、日本経団連会長が首相に「承服しかねる」と電話したそうです。野田政権は閣議決定を中止。「一〇月一日、電源開発（Jパワー）が、青森県大間原発の建設工事再開」（一〇月二日付「しんぶん赤旗」）。ひどい話である。

私が中学校のとき、「核エネルギーは人類が発見した第三の青い火、理想のエネルギー」と学んだ。だが出来たのは原水爆弾と事故への対応や使用済み核燃料の処理方法が見つからないまま動かしている原発。人類が生存していればいつかは、核エネルギーの安全利用をものにするであろうが、現状では制御でき

ない危険極まりないものです。

森本防衛大臣が就任前の発言で「原発は単にエネルギーの問題だけでなく非常に大事な抑止的機能を果たしている」と語っている。核の傘で平和の均衡が保たれていると主張する者も―言語同断である。まさに「洪水よ来たれ我なき後に」「人類滅亡なんて大げさなそんなこと俺の知ったことか」と言わんばかりの日本の歴代政府と核保有国にもものすごく怒りを感じます。

私の命もあとどれくらい持つかわかりませんが「老後は安心して楽しく、子や孫には平和を」、核兵器廃絶のためにがんばり抜きたい。

平和教育・始めた頃

土田光孝

一九五四（昭二九）年、新卒青年教師、当時の私の関心事は「侵略・戦争・原爆・朝鮮半島」であった。「わが青春に悔いなし」（黒沢明）。「また会う日まで」（今井正）を観たあとの感動は一週間、ひと月と私の魂をゆすぶっていた。「戦争」ということを、直接子どもたちと共に考えたい！そのため社会科の教師になることを選んだ私であった。

このことは私の生い立ちが関係しているともいえる。生まれ育ったソウルの地での生活実感が、戦後ずっと私の体から離れることなく、いろんな思考・行動を生み出していることも事実である。

ソウルの日本人街に住んで、日本人の小学校そして中学（旧制京城中学）に学んでいた私が、韓国人の住んでいる街を歩く時にある種の恐ろしさを

感じたこと、一言も一文字もハングルを知ることなしに日本へ帰国したこと、韓国料理（キムチ等）を全く口にしたことのない不思議さ、日本本土には日本人の貧しい放浪者がいるということを修学旅行（内地）から帰ってきた姉から聞いてびっくりした思い出等、侵略者としての日本人の生活の思い出は教師になった私から、どうしても離れ去っていかなかった。どんなに良心的で誠実な日本人であっても、日本人としての存在そのものが当時の朝鮮半島の人にとっては侵略者なのである。

当時、青年教師であった私を、砂川基地闘争の学習会などへ誘ってくれた一牧師（石川原水協の常任理事）がいらしたことは、私にとっては幸せなことだった。石川原水協といえば、一九五八（昭三三）年頃、私自身、夏の原水爆禁止世界大会に参加し、「私はヒロシマで死んだ、そのまま六つの女の子」の歌を覚えた感激も忘れることは出来ない。しかしこの時の世界大会の参加は、私本来の内気な性格のためか、県代表団と一緒に参加することを逃げ、単独で参加している。私とは本来、そういう人間なのである。

さらに幸いしたことは、私の学校にYWCA（キリスト教女子青年会）が存在したことである。核否定・アジア諸民族との連帯の方針を打ち出した日本YWCAが、一九七二（昭四六）年夏休みを利用して毎年「中高生ひろしまの旅」（広島・呉のYWCA・広島女学院の教師・中国新聞社等の協力）を企画、私も自分の学校の中高生約二〇人を引率して七、八回参加した。炎天下、暑さに全く弱い私が中高生と共に広島のいろいろな所を探訪することにな

った。

比治山のABC・原爆病院・福島病院・被爆者のおられる郊外の施設等への訪問、詩人・栗原貞子さんや被爆者の方々の体験談：、特に在日大韓キリスト教会広島教会を訪問し、被爆韓国人の声に直接触れたことは有意義な体験であり、教師として私のその後の最大の関心事は、被爆韓国・朝鮮人となっていた。

詩人会議かなざわ『独標』より

今 歌い伝えたい

山口 修治

戦後六十七年目の 今
まだ未解決の七三一部隊の悪行
生体実験について
告発し闘い支援する人がいて
その一方で
北朝鮮のミサイル発射や尖閣諸島が
取り沙汰されている

そんな中

カンタータ『悪魔の飽食』

「人間の英知と良心を：

悪魔に渡してはならない：

ささやくだけではいけない：

犯した罪を忘れぬため：

だから高く歌おう：」*

全国から五百人の歌人が

六月の金沢に集う

歌人の片隅に立ちたいと

元旦から朝夕二百六十二回練習したけれど

付け焼き刃では

マルタの叫びを受け止めきれず

五月三日の九条の会・石川ネットの憲法集会

輝け九条！許すな改憲！と仲間と叫びながら

平和憲法が施行された歴史を手探りしている

今

*『悪魔の飽食』の歌詞から抜粋

『和定例句報』より

宿題「無理」

佳作

星 啓 選

木偶の国無理は承知のオスプレイ

天につば無理やり自民間責し

民反対の消費税無理強し

無理強いに泥鰌あつさり再稼働

地位

維新というが貧乏人は立つの無理

天位

属国とたかを括って無理を言う

軸

地位協定有無を言わさず欠陥機

林

茂明

一杜

和子

茂明

一杜



◇絵手紙コーナー◇

一人一人がたすけあう 心のやさしく

金沢医療生協絵手紙班 中山清子

《非核平和・行事予定》

- ・一〇月二七日(出)一四時～一六時：T P Pを学ぶ講演会「サルでもわかるT P P」講師・安田美絵さん・野々市交遊舎ホール・T P P講演会実行委員会
- ・一〇月三〇日(火)一九時：志賀原発は廃炉に――一県民集会第三回実行委員会・近江町いちば館四階
- ・十一月三日(出)一四時～一六時半・平和憲法公布記念石川県民集会・講演「危機に立つ憲法」岩淵正明弁護士・「憲法二五条と九五条からひらけてくる三・一後の世界」池田香代子翻訳家／世界平和七人委員会・石川県教育会館ホール・九条の会石川ネット
- ・十一月三日(出)一五時～一七時一五分・憲法施行六五周年講演と合唱の集い・講演「平和的生存権と住み続ける権利」講師・井上英夫金沢大学地域創造学類教授・非核石川の会代表世話人・「紫金草物語」金沢紫金草合唱団・金沢大学人間社会第一講議棟・九条の会金大ネット
- ・十一月六日(火)一二時半：核廃絶署名行動・Mザ前
- ・十一月二一日(出)一〇時：志賀原発は廃炉に――一県民集会・金沢市中央公園・原発をなくす石川県連絡会
- ・十一月二一日(出)一三時半～一五時半：石川県保険医協会原発・いのち・みらい講演会シリーズ⑤「福島原発の現状と未来」小出裕章京都大学原子炉研究所助教授・ホテル金沢
- ・十一月二三日(木)～二五日(出)：日本平和大会・東京
- ・十一月二五日(出)一〇時～一六時：石川県労済会館・第七回石川県社会保障学校・メインテーム「憲法が輝く社会をめざして」新たな福祉国家を展望する」

(分科会) 一〇時～一二時

第一分科会「貧困克服のためにー生きがい、希望のもてる社会をめざして」第二分科会「社会保障とはなにか? 学び・話し合うつどい」第三分科会「『一体改革』でどうなる社会保障ー当事者、現場からの報告」

(全体会) 一三時～一六時

テーマ：私たちの社会保障基本法・社会保障憲章の提言

講師：渡辺治一橋大学名誉教授、井上英夫金沢大学地域創造学類教授

・十一月六日(木)一二時半：核廃絶署名行動・Mザ前

・十一月九日(日)一〇時：N P O法人「はだしのゲン」をひろめる会設立総会・DVD上映「はだしのゲンが見たヒロシマ」・近江町交流プラザ(予定)

・十一月二二日(出)一五時～一七時：医療福祉問題研究会第一〇九例会「雇用の劣化の現状とデーセン

ト・ワーク実現への課題」伍賀一道金沢大学教授・近江町交流プラザ四階集会室

《編集室より》

◎白山連峰を源として、安宅から内灘へ門前へと続くこの海岸地域にはわが石川が誇るべき自然の恵みと歴史の営みがあります。なかでも今年目を惹いたのはかほく市の「鶴彬を顕彰する会」主催「鶴彬のふる里・歴史街道フェスティバル(九月八日より)、それに続いて「内灘闘争六〇周年を記念」した内灘砂丘フェスティバル(九月二二日より)が連続して開催されたこと―歴史街道フェスは今年が第一回目。事務局が生涯学習課にある内灘町砂丘フェスは平

成一五年からの連続開催―さらに、平成の合併で輪島市となった天領・黒島地区や、総持寺祖院のある門前の街並みへと連なるこの海岸線は、長い歴史の営みを記すわが国の貴重な地域。伝えられる歴史の息吹を受け継ぎ、固有の特性を生かし、みんなの創意で地域の平和と発展をと願うばかりです。(二)



◎講演「現代の中国を、どうみるか」で、原爆投下について米国に抗議し、戦後国家賠償を放棄し、戦犯に恩赦を与え、口先だけで親中派を沢山つくった懐深い中国と、今の中国の相違は大きいと知った。日本とはまた犯罪感の違いも大きいと知った。汚職や麻薬や文化物に関する罪は重罰に処するお国柄である。「真の友人」は何も言えない他人ではなからう。その関係で諸問題に冷静にあたりたい(ま)。



◎映画『道―白磁の人』が金沢で上映されました。日朝協会石川支部が鑑賞券の普及に全力で取り組みました。二週間の期間中五四人(総鑑賞者)の方々に鑑賞頂きました。『勧めていただいた「白磁の人」、あの時代にあつて主人公の生きざまには感動の一言、涙溢れて困った。勧められていなかったら見ていない映画でした。小市民として出来る範囲で社会貢献をしていきます』とハガキが届きました。DVDが近々出来ますので見逃した方にはDVDの鑑賞会を用意したいと日朝協会では言っております。今時「こんなに入る映画は珍しい」と館の弁(平)。